

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 2 日現在

機関番号：25502

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K13088

研究課題名(和文) 助成動向からみる戦前期の民間助成財団の意義と役割

研究課題名(英文) Meanings and Roles of Grant-Making Foundation from the Point of View of Trend in Grant in Taisho Era and the Early Years of Showa Era

研究代表者

長谷川 真司 (HASEGAWA, Masashi)

山口県立大学・社会福祉学部・准教授

研究者番号：50438868

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、戦前期資産額も助成額も一番規模の大きかった原田積善会の保管する約2,000の史料の整理を行い、目録の作成を行った。目録については、財団にて閲覧できるようにしており、今後民間助成財団の研究を行う際財団が保有する史料の確認が容易にできるようにした。

また、民間助成財団の意義と役割について、助成の受け手側である団体からも総体的に研究を行うことができるように、原田積善会の所有する史料のなかから助成の意義や役割について把握できる史料を探り、そして助成の受け手側の団体が保有する史料から受けて側にとっての助成の意義が総体的に検証できる団体をあわせて探り、検証可能な団体の整理を行った。

研究成果の概要(英文)：In this study, the catalogue of about 2,000 historical materials in Harada Sekizenkai which is the biggest grant-making foundation in terms of the asset and the amount of grant was made. The catalogue was available to read in Harada Sekizenkai, and it would be easier to access to the historical materials for the future study.

Also, in order to study the meanings and roles of grand-making foundation from both the grand-making foundations and the recipient organizations as a whole, the historical materials in Harada Sekizenkai were searched to find out something to grasp the meanings and roles of grant-making foundation. Also, from the historical materials in the recipient organizations, the possible recipient organization to be studied was searched and listed.

研究分野：社会福祉学

キーワード：社会福祉史

1. 研究開始当初の背景

日本には現在少なくとも2,000以上の助成活動を行う民間助成財団が存在しているが、これらの財団に関する認知度は一般的にあまり高くないのが現状である。助成財団センターの調査によると、日本の大規模助成財団の多くが第二次世界大戦後に設立されており、現在多額の助成事業を展開している財団はそれほど長い歴史があるわけではない。しかし、日本の民間助成財団は、大正期から昭和初期に企業家によりいくつかの大規模民間財団が設立され、第二次世界大戦前には社会事業や文化事業などにおいて多額の助成を行っていた時代がある。特に社会事業の分野では、民間助成財団が社会事業を支えていた民間施設・組織を財政面から支援する上で重要な役割を担い、民間施設・組織にとって大きな意義を持っている助成も多くあった。

しかし、民間資金として施設の経営を支えた民間助成財団については、創設者や設立の経緯等に関する研究は行われてきたが、助成の動向を踏まえた研究は行われてこなかった。

民間助成財団に関する史的研究がこれまで進まなかった主な理由として一次資料の不足があった。戦前期における主要な財団の助成実態がわかる史料については、図書館などに財団の事業報告書などが一部保管されている財団もある。しかし、森村豊明会のように戦争のため財団の保有する貴重な史料が焼失したり、安田修徳会のように財団が解体になったり会社が合併するなかで、財団の史料が引き継がれずとり残されたりしている（例えば、安田修徳会に関する未公開の史料については、大磯にある安田不動産の厚生施設の倉庫に保管されていた）。また、存続している財団においても、社史の編纂や財団史の編纂でもしない限り過去の史料には触れる機会も少なく、また財団の職員も規模の関係上それほど多くはないため、史料も過去に整理されたままで、改めて財団としてそれらを丁寧にまとめる時間的また財政的余裕もなく、財団が保有する貴重な史料がまとめて表に出る事がなかったこともある。

近年戦前期の主要な民間助成財団の助成実態について各々の財団ごとの事業報告などの助成記録から明らかにされ始めてきているが、総体的な助成資金の動向についてはまだ明らかにされていない。特に民間助成財団についてはその財団からの助成実態に加えて、助成先の民間施設の運営資金における意義も含め総体的に明らかにされる必要があるが研究が進んでいない。

2. 研究の目的

本研究では、戦前期の民間助成財団研究が行われなかった理由の一つである一次史料が活用されていないことについて、戦前期資産額も助成額も一番規模の大きかった原田積善会の保有する史料について整理を行い、

目録を作成することを主要な目的とした。

また、民間助成財団については、その財団の助成実態についても史料不足から研究が進んでいないが、民間助成財団の意義と役割を考える場合助成の出して側の民間助成財団の実態を明らかにすることとあわせて、受け手側の施設や団体にとって助成がどのような意義があったか明らかにすることも求められる。そこで、総体的に財団研究を行う上で検証可能な助成先の施設や団体について、先行研究や施設や団体の保有する史料として特に財政状況がわかる史料があり、複数の助成財団から助成を受けている施設や団体についてどの施設や団体があるか調べ、検証可能な施設や団体について事例として取り上げ検証を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

本研究の主な研究方法は、以下のとおりである。

- ① 原田積善会に保管されている史料について目録を作成し今後の研究に活用できる史料を確認するとともに、今後財団史研究を行う際に研究者が史料にアクセス出来る環境の醸成を行う
- ② 原田積善会に残っている史料を基に助成先の団体として総体的に検証可能な団体（受け手先に財政に関する史料が残っている団体や先行研究で団体の財政状況について取り扱われている団体）の史料を検討する。
- ③ 財団と助成先の団体の史料を基に助成財団からの資金が施設にとってどのような意義を持っていたのかについて可能な施設について検証を行う。

4. 研究成果

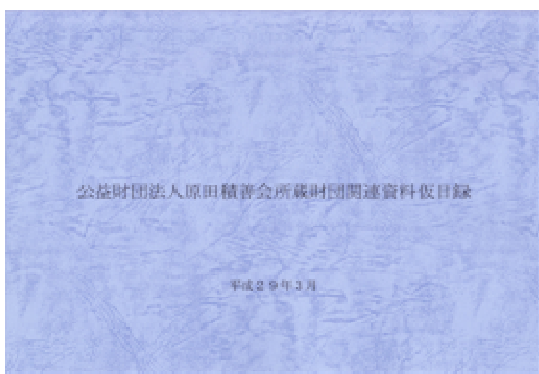
本研究では、まず戦前期の民間助成財団研究の足かせになっていた一次史料の不足について、戦前期資産額も助成額も一番規模の大きかった原田積善会の保管する史料が未整理になっているので、整理を行った。その上で、原田積善会が書庫に保有する財団関係の約2,000の史料に関して目録を作成した

原田積善会は設立後の事務所を東京麻布区市兵衛町においていた。1938（昭和13）年に同地において事務所を新築し、戦中もその事務所で業務を行っていた。ただし、都内の空襲が激しくなるなか、万が一に備えて1943（昭和18）年に世田谷区玉川等々力町に分室を設置し、関係書類の移動を行っていた。この時に事務所のスペースの問題もあり多くの書類の処分が行われたと言われている。幸いなことに本部事務所も分室も空襲で被害を受けず資料は全て無事であった。戦後財団は本部事務局が大臣官邸に貸し出されたので、等々力分室で業務を行っていた。財団は1996（平成8）年に分室事務所のあった土地のすぐ近くに現在の事務所を建築し移転している。事務所の移転の度財団が保管する資

料の一部が廃棄されているが、戦争で資料を喪失しておらず、現在においても貴重な資料が紙媒体で空調設備がしっかりしている場所に保管されている。

今回は、原田積善会の業務に関連した資料として書庫に保管されている資料について整理分類を行ったが、地下倉庫には創設者の原田二郎の私物（手紙や衣服など）や原田家が所有していた掛け軸などが保管されている。原田二郎は原田積善会を設立する際全財産を抛出し、子どももいなかったこともあり死後遺言により原田家を絶家している。そのため財団が原田二郎及び原田家に関連した物品を保管しているが、今回の目録は財団の業務に関連した資料のみを対象として作成している。

今回作成した目録については、財団にて閲覧できるようにしており、今後民間助成財団の研究を行う際財団が保有する史料の確認が容易にできるようにしたことで意義のある研究であった。史料1は目録の表紙で、史料2は内容の抜粋である。



史料1 原田積善会所蔵財団関係資料目録表紙

番号	項目名	文書名	冊数	枚	備考
A-4	資料審査録 第一号(申込)		1	30	昭和19年(昭和14)年寄附
A-4	資料審査録 第二号(申込)		1	108	
A-4	資料審査録 第三号(申込)		1	147	
A-4	資料審査録 第四号(申込)		1	164	
A-4	資料審査録 第五号(申込)		1	127	
A-4	資料審査録 第六号(申込)		1	126	
A-4	資料審査録 第七号(申込)		1	114	
A-4	資料審査録 第八号(申込)		1	88	
A-4	資料審査録 第九号(申込)		1	164	
A-4	資料審査録 第十号(申込)		1	167	
A-4	資料審査録 第十一号(申込)		1	167	
A-4	資料審査録 第十二号(申込)		1	90	
A-4	資料申込記入簿 第一号		1	102	昭和19年(昭和14)年寄附
A-4	資料申込記入簿 第二号		1	102	昭和19年(昭和14)年寄附
A-4	資料申込記入簿 第三号		1	161	昭和19年(昭和14)年寄附
A-4	資料申込記入簿 第四号		1	186	昭和19年(昭和14)年寄附
A-4	資料申込記入簿 第五号		1	182	昭和19年(昭和14)年寄附
A-4	資料申込記入簿 第六号		1	121	昭和19年(昭和14)年寄附
A-4	資料申込記入簿 第七号		1	76	昭和19年(昭和14)年寄附
A-4	資料申込記入簿 第八号		1	102	昭和19年(昭和14)年寄附
A-11	第三号 資料審査録 第一				昭和19年(昭和14)年寄附
A-11	第三号 資料審査録 第二				昭和19年(昭和14)年寄附
A-11	第三号 資料審査録 第三				昭和19年(昭和14)年寄附
A-11	第三号 資料審査録 第四				昭和19年(昭和14)年寄附

史料2 原田積善会所属財団関係資料目録抜粋

また、総体的に民間助成財団について研究を行うため、まず原田積善会の所有する史料のなかから助成の出して側の助成財団から助成の意義や役割について把握できる史料があるかどうか探った。結果として、現在までの研究で主な活用してきた助成金交付カ

ードの他に、主な史料として「寄付金申込記入帳(1930(昭和5)年~1992(平成4)年)」と「寄付審査録(1931(昭和6)年~1941(昭和16)年)」が有用であることが確認された。これらの史料については、創設者が亡くなってから記録され保管されるようになったものである。寄付審査録については、期間が限定されるうえ、この期間の全ての助成について記録として残っているわけではない。しかし、内容として例えば寄付申込記入帳では、誰が、誰の紹介で来所もしくは来状で申込を行い、依頼の理由は何であったかがわかる史料である。また、寄付審査録は、申込を行った施設や団体の概要、理事等の意見、最終的な決定等についてわかる史料である。従って、寄付審査プロセスから助成財団側の助成がどのような理由で行われたがわかり、助成の意義や役割を検証するうえで貴重な史料である。これらの史料については、電子データ化を図り今後の研究に活かすことができるようにした。そして、原田積善会については、「寄付金申込記入帳」と助成決定のための「寄付審査録」にある助成先の施設や団体を中心に体的に検証可能な施設や団体について検討できるよう、二次史料として年史をまとめている施設や団体を候補として整理し今後の検証ができるようにした。

あわせて、他の民間助成財団(安田修徳会や三井報恩会など)についても史料の収集を行い、史料から個別の財団の状況をさらに詳しく検証できるようにした。そのうえで、総体的に財団研究を行う上で検証可能な助成先の施設や団体について、先行研究や施設や団体の保有する史料として特に財政状況がわかる史料があり、複数の助成財団から助成を受けている施設や団体についてどの施設や団体があるか調べ、検証可能な施設や団体について事例として取り上げ検証を行うことができるようにした。本来の目的としては、検証まで行う予定であったが、本研究ではその準備までしかできなかった。

これらの準備をもとに、現在事例として取り上げる施設について検証を行っているところである。検証を行う予定の施設としては、一つには「興望館」がある。興望館については、すでに施設の財政に関する研究が多数わかれており、その財政の詳細についても論文において公表されているため、民間助成財団からの助成の意義や役割について総体的に検証することができるだろう。その他の施設や団体についても現在どの施設や団体が検証可能であるか検討を行っているところである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕（計 1 件）

長谷川真司、「助成実績からみる大正期から昭和初期の社会事業における民間助成財団の特徴と役割」, 東京社会福祉史研究会第 109 会例会, 2016 年 2 月 27 日, 専修大学（東京都千代田区）

〔図書〕（計 0 件）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長谷川 真司 (HASEGAWA Masashi)
山口県立大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：50438868